

+JMJ+ (+イエス、マリア、ヨセフ+)

2017年5月20日

教皇様、

来たるシノドス「若者、信仰と召命の識別」の準備として、教皇様は、若者の生活 - 信仰生活や教会での役割についての希望や考えについて、またキリスト者としての信仰を生き抜く際の、心にかかることや葛藤について聞きたいと、世界の若者に願われました。私たちの関心事に向けてくださるこの配慮に心動かされ、私たち世界中の若者は、特別なお願いをするために教皇様にお便りします。

教皇様は多くのメッセージの中で、私たち若者にとり、信仰を生き抜き、私たちが呼ばれているもの - 聖人！ - になることが、往々にしてどれほど難しいことか、理解を示しておられます。教皇様、それは難しいだけでなく、不可能に思われることもあります。私たちはこのように考える誘惑に駆られます。「昔は聖人がいたけど、今の時代に聖人？ 召命の道をもう見つけた人ならあるかもしれないけど、自分にとってはたぶんない」と。

これは誤解だと私たちは知っていますが、このような考え方と闘うために、そうではないと示してもらう必要があります。「自分たちの仲間」である聖人が必要です - まだ若く、神が自分のために抱いておられる大きな計画についてまだはっきりとわからず、それほど遠い昔に生きていた人ではなく、同じ現代の人です。

この必要性と、また福者ピエル＝ジョルジョ・フラッサーティへの世界的な信心のあらわれを前にして - ピエル＝ジョルジョが世界中の数多くの若者に光を与え、取りなしによって助けたことを前にして - 私たちは謹んでお願いします。来たるシノドスの時に、私たちの愛する福者ピエル＝ジョルジョ・フラッサーティを聖人の列に加えることにより、現代にあっても、若い人であっても、聖人になるのは可能なのだと明確なしるしを下さいますように。

私たちがこの列聖を願うのは、福者ピエル＝ジョルジョが特別な意味で「私たちの仲間」 - 若者であるからです。彼は偉大な修道会を創立することも、権力を持つ立場に上りつめることもなく、ただ普通のキリスト者としての生活を、神と他者への非凡な愛をもって生きました。

福者ピエル＝ジョルジョはたった24歳で亡くなりました。まだ「人生の道を決めて」いませんでした。彼はまだ、心躍らせながらも迷いの多い青年期にありました。人生がどのような道をたどるものになるのか、まだほとんどわからない時期、しかし彼はその年代（私たちと同じ年代）を、英雄的な徳をもって生きたのです。人生の大きな決断をするまで、あるいは人生の具体的な方向性がはっきりするまで待つことなく愛する、という日々の英雄的な決断をし始めたのです。それは若いピエル＝ジョルジョの生き方を

特徴づけました。こうして彼は、私たちにとって識別の模範となります。より大きな召命の問題の答えは、しばしば、私たちの目の前にいる人をどのように具体的に愛するか、日々識別することを通して、しだいに与えられるということを示してくれるのです。

このすばらしい若者のことを、教皇様はよくご存じです。彼が、貧しい人々に仕えることの模範、学生の模範であり、自然の中の活動を愛すること、困難な家庭の状況に応えること、ますます個人主義的になるこの時代にあって、友情という大きな価値に関しても、私たちの模範であることをご存知です。最後に、そして最も大切なことですが、福者ピエル＝ジョルジョは私たちにとり、神を愛する若者の模範です。ピエル＝ジョルジョの祈りの生活は、彼を知る人々にとって光となり、百年後の私たちにもインスピレーションを与えつづけています。彼を天へと導いた愛のわざを行うように衝き動かした同じ聖霊に、私たちもまた満たされることができると示してくれます。

愛する教皇様、神と隣人を英雄的な愛をもって愛し始めるために、青春が過ぎ去るのを待たないようにと教えてくれる福者ピエル＝ジョルジョ・フラッサーティが、聖人として普遍教会の祭壇に上げられますよう謹んでお願い致します。

聖人になるのは本当に可能なのだと私たち若者に示すために、そう、実に「私たちの仲間」がそれを成し遂げた、聖人であると宣言された、と告げることに良い方法はないかもしれません！ 若者のために特別にささげられるシノドス中に福者ピエル＝ジョルジョを列聖することは、私たちも、たとえ若くとも、聖人になれるということを証しするでしょう！

教皇様と教皇様の奉仕職のため、大きな愛とお祈りの約束をこめて。

世界の若者より（そしてもう年若くはないけれど、若者を愛する者たちより！）